

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三―五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

お元気ですか。

窓越しに桜を見て過ごし、新緑が美しくなつて爽やかな風を葉の動きで感じる日々を静かに過ごして二カ月が過ぎました。

毎日、テレビやラジオの新型コロナウイルス関連ニュースで少々心身ともに疲れがでてきているこの頃です。

家の片づけをしてみましたか。

映画(DVD)や読書で久しぶりに充実した時間を過ごしましたか。

庭に出て草花の手入れなどをしてみましたか。

時々、生活必需品を買いにホームセンターに行つて駐車場の混み具合に驚きもし、いつ薬局に行つてもマスクや消毒液や体温計がないのがっかりする日々も続きました。

しかたなく布やマスク用のゴムを購入してマスクづくりに挑戦してみたものの初めのころは二重ガーゼもゴムも手に入らない状況でした。

手づくりマスクは二〜三枚あれば洗ってアイロンをかけるという手間はかかりませんが便利です。身内や親しくしている友人に送りました。

これからは暑くなる夏に向けて夏用バージョンを試作してみようとも思っています。

スーパーにいったら「らっきょう」が出ています。もうそんな時期になったかと二日続けて酢漬けをつくってみました。

旬な食材の誘惑には、ついつい負けてしまいました。こんなことでさえリフレッシュになっています。

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が全面解除され、徐々に普段の生活ができるようになってきたものの、学校や公共施設は段階的解除となり、まだ不便な日々が続いています。

手洗いとアルコール消毒剤の使用、社会的距離をとり、換気を十分ににして、3つの密(密閉・密集・密接)を徹底するよう言われています。いつまでこのような状態が続くのか誰にもわからず不安な日々を過ごしています。

とは言っても、体制を整えて心身ともに新たな気持ちで、新しい生活として、生活基盤を組み立てなおし、出発です。

ノイエス朝日も四月〜五月は、完全自粛で休廊していました。

延期になった三企画と一貸しギャラリーの微調整がようやく終了しましたので、ご案内いたします。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

第4回 楢 円 展

Session いま こゝ

〈企画〉

掛川孝夫 河内世紀一 酒井重良
住谷夢幻 萩原敏孝 平野裕明
福島保典 真下京子

会期 六月二十七日(土)〜七月五日(日)

午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

白川昌生・しらかわともこ展

〈企画〉

会期 七月十一日(土)〜十九日(日)

午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

群馬工芸美術会展

〈企画〉

会期 七月二十一日(火)〜二十九日(水)

午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

四月に予定していました「石原彰二展」は、来年の三月下旬に、「上杉一道展」は、今年の十一月七日(土)〜十五日(日)。「樺澤健治作陶展」は、今年の十二月上旬に延期になりました。詳細につきましては、後日ご案内いたします。

なお、ご来廊の折には、マスクの使用とノイエス朝日入口に用意してあるアルコール消毒をご利用ください。

また、展覧会につきましては現時点では開催する予定ですが新型コロナウイルス感染状況に変化が生じた場合は変更をすることもありますので、ノイエス朝日のホームページ及びご来廊の折には、お電話にてご確認の上、お出かけください。よろしくお願いいたします。

久しぶりの美術館訪問と美術館情報

高崎市美術館が五月十六日から開館したとの情報を得てホームページを開いてみると「健康状態申告書」の提出や諸注意が記載されていました。事前にプリントしていけば時間短縮になるとのことなので早速記入して開催されている秋山コレクション「人間のいる風景」を鑑賞しました。

ライオンハルト・サビエはじめ深井克美を中心にーというコレクションとして充実した作家、作品群に驚き、貴重な時間を過ごすことができました。

六月二十一日(日)まで開催とのことですが休館日、開館時間、観覧料などについては、ホームページを確認の上、是非ご覧になってください。

ノイエスに出勤すると桐生の大川美術館から一月十八日から三月二十二日まで開催された「桐生のアーティスト2020」の記録集が送られてきていました。

ノイエス朝日で個展を開催したスペイン在住の石原彰二と桐生と熊本で制作を続ける丸尾康弘の他、金原寿浩、小林達也、小松原洋生、圓山和幸、森村均、山口晃の八名の作家による展覧会の記録集です。(敬称は略させていただきました)

A4判のカラー四十頁の八名のアーティストの展示風景と「あなたの創作にとって桐生という地はどういう意味をもっていますか?」という問いかけに対する、それぞれの作家の思いが書かれ、略歴とともに掲載されています。

その前日にノイエスに展覧会の打ち合わせのため来廊された作家と新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う教育現場の話、さらに話は飛躍して、作家にとって生まれた土地や育った土地、作品制作をする土地という「あなたにとって・・・」の制作の根にある見え隠れする重要な部分に触れた話になりました。

グローバル化の大きな波の中にあつて、隣近所の日本独自の昔からある人と人の「おつきあい」が今後さらに重要になってくる気がします。テレワークやオンライン授業もますます日常化してくると思いますが、自然災害の多い日本では多様性を得意とする国民は両方をうまく社会の中に取り込んでいけると願うばかりです。

*「桐生のアーティスト2020」の記録集は、大川美術館で通信販売しています。直接お問い合わせください。